

令和7年度 前期 ビジネス・キャリア検定試験

経営情報システム分野
3級 経営情報システム

試験問題

(13 ページ)

1. 試験時間 110 分

2. 注意事項

- (1) 試験問題は、係員の指示があるまで開かないでください。
- (2) 表紙に記載されている試験区分名が、申請している試験区分名と同じか確認してください。申請している試験区分と異なる試験区分を受験した場合は採点できず、不合格となりますので、ご注意ください。なお、試験開始後に申し出られても、試験時間の延長はできません。
- (3) 試験問題は、40題あります。
- (4) 試験問題の配点及び合格基準は、次のとおりです。
(配 点) 問題1～問題40 各2.5点 合計100点
(合格基準) 試験全体として概ね60%以上の正答。
- (5) 関係法令、会計基準、J I S等の各種規格等に基づく出題については、問題文中に断りがある場合を除き、令和7年5月1日時点で施行されている内容に基づくものとします。
- (6) マークシートにマークする際には、HB又はBの黒鉛筆で、はっきりとマークしてください。それ以外は使用しないでください。なお、訂正する場合は、採点の際にマークシートの誤読の原因となることがありますので、きれいに消してください。
- (7) 計算等が必要な場合は、問題用紙の余白を使用してください。
- (8) 問題番号及び問題文に従って正解と思われるものを1つだけ選んで間違えないようにマークしてください。
- (9) 試験問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- (10) 試験中にトイレへ行きたくなった場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。
- (11) 試験終了時刻前に解答が済み、退出する場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始後30分間及び終了前10分間は、退出できません。なお、退出する場合は、周りの受験者に配慮して、静かに退出してください。
- (12) 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。
- (13) 試験終了後、マークシートを必ず提出してください。ただし、試験問題は、持ち帰ることができます。なお、マークシートが提出されていない場合は、失格となります。
- (14) カンニング行為（他の受験者の答案等を見ること・他の受験者に答えを教えること・他者から答えを教わること・指定されたもの以外のものを机の上に置くこと等）、替え玉受験、不正行為と疑われるような紛らわしい態度をとる行為、他の受験者の迷惑となる行為、係員の指示に従わない場合などは、不正行為とみなされます。不正行為とみなされた場合は、直ちに退場となり、当該期に受験する試験区分のすべてが失格となります。
- (15) 試験問題の転載、複製などを固く禁じます。

問題 1 外部から収集する情報に関しては、その特徴を理解して利用する必要がある。＜情報の特徴＞と＜情報の種類＞の組合せとして最も適切なものは、次のうちどれか。

＜情報の特徴＞

- ①速報性があり、情報が体系化、組織化されている。
- ②特定分野ごとの情報を得ることができる。
- ③速報性があるが、情報のバイアスが大きい場合もある。
- ④専門的な情報を得ることができる。

	＜情報の種類＞			
	ソーシャル ネットワーク	ニュース メディア	調査報告書	学術情報
ア	③	①	②	④
イ	③	④	②	①
ウ	②	③	①	④
エ	③	①	④	②

問題 2 オープンデータに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．官民データ活用推進基本法において、国及び大企業（資本金 3 億円以上）はオープンデータに取り組むことが義務付けられた。
- イ．政府、地方公共団体、独立行政法人、大学などから提供される公共データや学術データが中心である。
- ウ．誰でも自由に入手、加工、利用、再配布できるよう、著作権上 2 次利用の許可を明示して提供するケースもある。
- エ．ソフトウェアで取得・加工したり、ほかのデータと組み合わせて分析できる形式で提供される。

問題3 情報のビジネス活用の例として、天候による販売商品の候補を選択する場合の記述として不適切なものは、次のうちどれか。

天候による商品別の利益予想一覧表

(単位：万円)

	晴れ	曇り	雨
候補 A	90	60	20
候補 B	80	50	40
候補 C	80	70	30
天候の確率	40%	40%	20%

- ア．一番楽観的に利益の最大値を得ようとするなら候補 A になる。
- イ．最悪の事態でも得られる利益の最大値なら候補 B になる。
- ウ．天候の確率を見て利益の期待値の最大値は候補 B となる。
- エ．予想が外れたときに一番悔しくないものを選ぶなら候補 B となる。

問題4 データの蓄積、分析処理に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．データウェアハウスに蓄積されたデータは、時系列に保管され、更新されることはない。
- イ．データマートのデータは、データウェアハウスのデータよりも小規模なため、一般的に利用しやすい。
- ウ．データマイニングとは、データをローカルコンピュータにダウンロードし、データを集計・加工することである。
- エ．「年月」、「商品」及び「地域」などから構成される販売実績に関する多次元データベースから、特定の「年月」における「商品」と「地域」の表を作成する操作は、スライシングである。

問題5 バーチャルリアリティに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．スマートフォンなどで、現実世界の風景にCGなどで作った仮想現実を合成し、あたかもゲームのキャラクターがその場にいるかのような体験ができる。
- イ．グラス型のディスプレイを装着するなどして、現実世界に仮想世界を反映させることが可能で、それを複数の人間が同時に体験したりすることができる。
- ウ．ヘッドマウントディスプレイで、現実世界に過去の映像を差し替えて映すことで、昔の出来事があたかも現在、目の前で起きているかのような体験ができる。
- エ．グラス型のディスプレイを装着するなどして、仮想世界に自分が実際にいるかのような体験ができる。

問題6 音声データに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 音声データは、映像データに比べて容量が大きくなる。
- イ. 携帯電話の音声通信では、無圧縮で音声データを送る。
- ウ. 音声認識させたテキストデータからは、単語の分割ができない。
- エ. 音声データから歌声データを合成することができる。

問題7 Webに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. C S Sの不備を突いて、S Q Lを不正に動作させる行為が可能である。
- イ. D N Sによってドメイン名をI Pアドレスに変換する。
- ウ. 表計算ソフトウェアをWeb上のアプリケーションとして、実行することができる。
- エ. 動的なWebページを実現する例として、P H PとS Q Lの利用が挙げられる。

問題8 グループウェアに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 単独のS N Sには、ポータルサイト、メール、ワークフロー、情報・ファイル共有などの機能はない場合が多いが、グループウェアでは標準的な機能である。
- イ. シングルサインオンを可能にすれば、グループウェア機能だけでなく、業務システムも個別のログインをなくすことができる。
- ウ. 内部統制の要求事項を実現するために、ワークフロー機能は有用である。
- エ. クラウド環境のサーバーとオンプレミスのサーバーが連携することはセキュリティ上問題があるので、クラウド環境でグループウェアを導入する場合、オンプレミス環境のサーバーとの連携はできない。

問題9 E C (Electronic Commerce) に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 企業間の通信のために専用回線が必要となる。
- イ. 個人間取引においては、E Cの仲介業者としてプラットフォーマーが存在する。
- ウ. 決済機能を社外の別システムで取り扱わないため、安全性が向上する。
- エ. 企業と消費者間の商取引は、E Cに含まれない。

問題10 データのグラフ化や分析に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 表計算ソフトのグラフ作成機能を、外部のプログラミング言語から制御できる。
- イ. 表計算ソフトのピボットテーブルからドリルダウンはできないため、R D Bへの取り込みが必要となる。
- ウ. 複数ファイルの項目を集計することは、B Iソフトウェアではできない。
- エ. 統計ソフトウェアでは、表計算のファイルを直接読めないため、C S V形式に変換する。

問題11 高性能を目指した処理方式に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. マルチコアプロセッサとは、高性能な分散処理アーキテクチャであり、CPU内での高効率な処理方式である。
- イ. グリッドコンピューティングとは、複数のコンピュータを統合して高性能計算を行う分散処理構成である。
- ウ. クラウドコンピューティングとは、仮想化技術により柔軟にスケーリングできるオンデマンド処理方式である。
- エ. エッジコンピューティングとは、クラウドやデータセンターに依存せず、エッジ側（端末や近くの装置）で処理を行う。

問題12 以下のA～Cに示す現象や処理を表す用語の組合せとして適切なものは、次のうちどれか。

- A. HDDでデータの保存と削除を頻繁に繰り返したときに起きる不具合を解消する操作
- B. 主記憶のメモリ容量を超えてプログラムを処理するための方法
- C. 同時に多数のプログラムを実行したとき、本来の処理が止まってしまうように見える現象

- | | | |
|------------------|----------|----------|
| ア. A：デフラグメンテーション | B：仮想記憶方式 | C：スラッシング |
| イ. A：フラグメンテーション | B：スワッピング | C：ページング |
| ウ. A：デフラグメンテーション | B：スラッシング | C：ページング |
| エ. A：フラグメンテーション | B：仮想記憶方式 | C：スラッシング |

問題13 スーパーコンピュータに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. OSには、Linuxが多く使われている。
- イ. 気候変動予測などのシミュレーションに利用されている。
- ウ. 理化学研究所の富岳は、科学技術の振興に寄与する利用でなければならない。
- エ. 1990年からの30年間で計算速度は、1万倍程度向上した。

問題14 ネットワークに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. スター型やバス型などの接続形態を、ネットワークのトポロジーという。
- イ. 通信できる端末を限定する方式として、トークンパッシング方式がある。
- ウ. LANスイッチを使用すると、各ポートにおいて全二重通信が可能となる。
- エ. CSMA/CD方式は、主に無線LANにおいてデータの衝突を起こさないように制御する方式である。

問題15 情報社会を支える I T 活用に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．アクセシビリティとは、使いやすさや利用しやすさを指しており、2024年4月から Webアクセシビリティへの配慮が義務化されたが、実施基準や、国・地方公共団体と民間企業とのレベル差、罰則規定がないなど、課題を抱えている。
- イ．ディープラーニングには、人間があらかじめデータとパターンを紐づける「教師あり学習」、コンピュータ自らが取り込んだデータからパターンや規則性を見つけ出す「教師なし学習」、結果の評価で自ら更新する「強化学習」などの種類がある。
- ウ．自動運転技術は、レーダーやGPSセンサー、カメラ、人工知能（AI）などの先進技術を組み合わせて、CO₂の削減、事故の減少、渋滞の緩和、移動の自由度向上などを目指している。
- エ．国のICT政策のひとつであるオープンデータ戦略は、公共データのビジネスでの活用を目指して、組織や業界内で保有されているデータを社会で効果的に利用できるように環境を整備しているものである。

問題16 以下の＜事例＞において、A社がAIを活用した人材採用システムの利用を断念した本質的な理由として適切なものは、次のうちどれか。

＜事例＞

米国の大手IT企業A社では、2014年からAIを活用した人材採用システムの開発に着手した。過去10年間の履歴書を学習させ、それを基に応募者を5点満点でランク付けするものである。ところが2015年頃には、ソフトウェア開発など技術関係の職種において、システムに性別の中立性が働かない事実が見つかった。最終的には、A社では2018年までにこのシステムの利用を断念することになった。

- ア．発見された問題点への対応を行っても、別の差別をもたらす選別の仕組みが生まれていないという保証がなかったため。
- イ．明らかになった性差別への対応についてのシステム改修に、莫大な費用がかかることが明らかになったため。
- ウ．学習させるデータから、差別につながるような要因を取り除くことが技術的に困難であったため。
- エ．この問題がメディアで報道された場合に、A社のイメージダウンにつながるリスクが大きいと判断したため。

問題17 業務分析に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．業務分析では、特性要因図やパレート図などを用いて業務の流れを記述する手法がよく使われる。
- イ．業務分析の目的は、改善の対象となる業務の明確化と業務の全体像を策定することであるが、その前提として、経営上のニーズ・課題、事業・業務環境、現状分析、情報技術動向などを確認する。
- ウ．業務分析では、業務で使用されている資料やデータを収集し、経営目標などと比較して、どこに問題点があるかを把握する。
- エ．BPRとDXを比較すると、DXの方が新しいビジネスモデルを作ることに力点が置かれている。

問題18 業務分析や業務課題対応において着目すべきポイントとその判断に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア．業務分析では業務量調査を行い、業務量の多い個人や部署が担当する業務を改善対象とする。
- イ．業務課題は現場担当者が最もよく把握しているため、現場の意見や課題を採用するのが効率的な業務改善となる。
- ウ．業務改善として目指す業務手順は、社内外を問わず、その業務に熟練・特化した個人のやり方をお手本とする。
- エ．業務課題への対応は、緊急性や事業リスクが高く、着手しやすいものから優先して始める。

問題19 DFD（Data Flow Diagram）において、「データの発生源と行き先を表現している」記号として適切なものは、次のうちどれか。

ア. 

イ. 

ウ. 

エ. 

問題20 業務改善の検討から要件定義に至る工程での作業に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 現行業務の問題について、ブレインストーミングなどにより解決の方策を見つける。
- イ. データ項目とその関連をE-Rダイアグラムで記述する。
- ウ. システムの処理時間や障害復旧時間などの非機能要件を記述する。
- エ. 使用する各帳票の詳細レイアウトを記述する。

問題21 「クラウドリフト」に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. オンプレミスとパブリッククラウドを組み合わせたクラウド環境を構築すること。
- イ. 既存システムを基本的に改修せずにクラウド環境へ移行すること。
- ウ. 特定の複数の事業者などが共同で所有あるいは運用するクラウド環境のこと。
- エ. オンプレミスのシステムをクラウドに適合した形にして移行すること。

問題22 自社の基幹業務システム開発を、自社で行う方法（自社開発）と外部に委託する方法（他社開発）とで比較する場合、その一般的なメリットとデメリットに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 自社開発のメリットは、組織や現状業務の情報が豊富で、利用者の要望を多く取り込むことができるため、あるべき姿のシステム構築が容易という点が挙げられる。
- イ. 自社開発のデメリットは、自社内に開発要員を抱えることになるため、開発要員の人件費が固定費用化するという点が挙げられる。
- ウ. 他社開発のメリットは、外部の優れた開発力を利用できるため、技術的に優れたシステムを短納期で開発できる可能性があるという点が挙げられる。
- エ. 他社開発のデメリットは、システム開発のノウハウが自社に残らないため、稼働後の改修における費用や適時対応の課題が生じる点が挙げられる。

問題23 E R Pシステムに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. E R Pとは、企業全体の経営資源を総合的に管理し経営の効率化を図る手法であり、それを実践するためのシステムをE R Pシステムという。
- イ. E R Pシステムには、人事、経理、販売、生産、在庫、物流など、ほとんどの業務機能が含まれている。
- ウ. E R Pシステムは、標準的な機能構成になっているため、導入に際してはカスタマイズして自社の業務のやり方に適合させることが前提となる。
- エ. E R Pシステムの中には、クラウドコンピューティングの普及により、インターネット経由でシステム機能を提供するクラウドサービスも存在する。

問題24 ユーザーインターフェースやヒューマンインターフェースの設計において、「メタファー (Metaphors)」という言葉が用いられることがある。この場合の「メタファー」の意味合いとして最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 画面上のコンテンツを直接操作することで、ユーザーの理解を深められるようにすること。
- イ. 機器やシステムにおけるタスク、ツール、操作などのデザインによって、ユーザーの認知過程を支援すること。
- ウ. ユーザーの行動を確認し、その結果を示すことで、ユーザーに新たな情報を提供すること。
- エ. 業務用アプリでは集中力を妨げないよう目立たないグラフィックにするが、ゲームアプリなどでは楽しさや興奮をもたらすような外観にすること。

問題25 入力データをチェックする方法のひとつであるシーケンスチェックの説明として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 入力されたデータの桁数が、あらかじめ定められた形式に合致しているかどうかをチェックする方法である。
- イ. 入力されたデータが、あらかじめ定められた基準に従って順序付けられているかをチェックする方法である。
- ウ. 入力されたデータが、あらかじめ定められた値の範囲内に収まっているかをチェックする方法である。
- エ. 入力されたデータが、ほかのデータと論理的に矛盾していないかどうかをチェックする方法である。

問題26 ファイルのレコード形式には、固定長レコード、可変長レコード及び不定長レコードの3種類がある。これらの特徴に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 一般のPCで使われるテキストファイルは、可変長レコードに分類される。
- イ. 不定長レコードは、メインフレームにおけるロードモジュールライブラリで使われていた。
- ウ. 可変長レコードは無駄な領域を持たないため、どんな場合でも固定長レコードより格納効率が優れているといえる。
- エ. 不定長レコードでは、レコードの先頭に長さを示すデータが格納されている。

問題27 クラウドシステムの提供形態は、プライベートクラウド、パブリッククラウド及びハイブリッドクラウドの3種類に分かれるが、それぞれの選定基準に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 高セキュリティでかつコンプライアンス重視のシステムには、パブリッククラウドが適している。
- イ. 初期コストを抑えサービスを迅速に立ち上げたい場合は、プライベートクラウドが適している。
- ウ. 既存の自社運用している基幹システムと併用して、新たにWebサービスシステムを構築したい場合、ハイブリッドクラウドが適している。
- エ. グローバル展開のための一時的なシステムの場合、プライベートクラウドが適している。

問題28 S C M (Supply Chain Management) に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. S C Mとは、製造業や流通業などにおいて、商品などの供給の流れに関する情報を共有化することにより、サプライチェーン全体の経営効果を最適化するための戦略的経営手法のことである。
- イ. S C Mのパッケージソフトには、計画系と実行系とがあり、計画系として需要予測、補充計画など、実行系として受注管理、在庫管理、配送管理などの機能が用意されている。
- ウ. 製造元、仕入先、供給先などにおいて、生産計画、在庫方針、顧客対応などがそれぞれ異なると、全体の最適化が図れずうまく機能しない。
- エ. S C M導入の最大の目的は、サプライチェーンを構成する各企業間の情報連携をシームレス化することにより、必要なときに必要なものを必要な量だけ作る無在庫の実現である。

問題29 販売業務におけるシステムの機能に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. S F A (Sales Force Automation) は、営業日報機能による商談の進捗管理や顧客データベースによる営業部門の情報共有が目的であり、販売活動の分析機能はなく、蓄積されたデータを活用するために提供するものである。
- イ. 受発注システムの基本機能は、注文を記録し、在庫があれば出荷指示へつなぎ、在庫がなければ購入や製造の指示を出す。また、新商品の紹介やキャンペーンの告知を支援する情報提供機能を持たせている受発注システムも存在する。
- ウ. 顧客との関係を管理するCRM (Customer Relationship Management) では、顧客の購入パターンから優良顧客かどうかを判断したり、優良顧客と同じ属性を持つ新規顧客を発見する機能も持っている。
- エ. 販売業務における在庫管理システムの基本機能は、商品の在庫状況を確認し、そこから出荷指示につなぐことであり、入出荷記録から最適発注量や発注のタイミングを算出することに利用価値がある。

問題30 POSシステムに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. POSターミナルで読み込まれた各種情報は、ネットワークにつながれたストアコントローラへ随時送られる。
- イ. POSシステムには、収集した各種管理情報を基に、従業員の勤怠管理や給与計算など、店舗管理業務全体を支援する機能を有すものもある。
- ウ. POSシステムの導入は、ハードメリットのみならず、売れ筋・死に筋情報の把握、陳列・ロケーションの適正化などのソフトメリットをもたらすことが期待できる。
- エ. POSシステムなどで商品を識別するために印刷されているJANコードには、商品価格情報も組み込まれている。

問題31 物流及び販売業務におけるシステムに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. リバースロジスティクスシステムは、販売者から生産者へと向かう返品や不良品回収などの処理を効率的に行うためのシステムである。
- イ. 物流情報の入り口に当たる受注システムは、Webを介することによって、顧客側とも連携した新たな受注業務のプロセスの構築を可能にする。
- ウ. 食品スーパーでは、販売管理システムと物流管理システムを統合することによって、店舗の顧客層に応じた陳列商品の組合せや棚割りのモデル化を行い、販売支援を行っている。
- エ. 3PL (3rd Party Logistics) の利用によって、物流管理コストの削減が実現でき、加えて受注業務や経理業務に関わるコストも削減できる。

問題32 物流業務を支える技術と最新の動向に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 空域を使い、かつ自動航行可能なドローンを使った物流輸送の改革が期待されているが、航空法などによる規制で現在実用化の目途は立っていない。
- イ. 輸配送ルートの最適化や需要予測、トラックの運行管理にAIを活用して、配送スケジュールの管理や輸送計画の作成の効率化につなげている。
- ウ. 物流現場では、人によるモノの移動や載せ替え、検品といった行動による人為的なミスを、ウェアラブル端末を導入することによって減少させている。
- エ. 商品の移動に関する情報だけでなく、物流業務に用いる車両自体から収集される情報により、ドライバーの健康状態を監視するものが実現している。

問題33 e-ラーニングシステムに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. e-ラーニングを実施するために必要な学習教材を開発する場合には、一般にオーサリングツールを活用して作成する。
- イ. LMS（Learning Management System）は、学習者の科目の履修状況から出席状況、試験結果のほか、教材の配信管理などを総合的に管理するシステムである。
- ウ. e-ラーニングシステムに最低限必要な要素は、システム環境のほかに、「教材・学習材」と学習者である。
- エ. e-ラーニングシステムは、個人学習を前提としていることから、講師やほかの受講者とコミュニケーションを図りながら学習する環境は提供されていない。

問題34 運用プロセスにおける「価値の共創」について、価値を共に創出する活動主体として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. サービス利用者（消費者）とサービス提供者
- イ. 情報システムの開発部門と運用部門
- ウ. 情報システムの設計者とアプリケーション製造者
- エ. サービス利用企業の経営部門と業務部門

問題35 a から c のうち、ITサービスにおけるSLAに関する記述として適切なものは、次のアからエのうちどれか。

- a : SLAは、サービスの目標値を定めるもので、目標値に達しなかった場合の対応は、SLAには含めるべきではない。
- b : どんな情報システムでも障害は発生すべきではないので、年間の障害発生件数やシステム停止時間の目標値は、原則として0とするべきである。
- c : SLAは、契約期間中に見直すことも必要である。

- ア. a と c
- イ. b と c
- ウ. c のみ
- エ. b のみ

問題36 「システム管理基準ガイドライン」（特定非営利活動法人日本システム監査人協会、令和5年8月10日公表）が示す、運用計画の策定に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 運用管理の方針及び運用設計に基づいて運用計画が策定されている。
- イ. 運用の品質を低下させるおそれのあるインシデントに対して、計画的かつ適時に対処されている。
- ウ. 運用計画において、管理すべきリスクが明確にされている。
- エ. 運用の実施に必要な情報システム又はサービスが識別され、利用可能な状態になっている。

問題37 以下の＜事例＞に基づき、同様の原因による障害を予防するために改善すべき管理活動として最も適切なものは、次のうちどれか。

＜事例＞

業務アプリケーションを稼働させるサーバー機で、機器内温度の注意を示すランプが点灯したが、機器のランプの確認は定期巡回監視の点検項目になかったため、確認・報告されず必要な処置が行われなかった。その後、サーバー機は機器内の温度異常のため停止し、業務アプリケーションの処理が中断された。調査の結果、機器内へ外気を取り込むファンの故障が原因であることが判明したため修理を行った。

- ア. 構成管理
- イ. 問題管理
- ウ. イベント管理
- エ. キャパシティとパフォーマンス管理

問題38 以下は、ネットワークの構築や運用を行うときに必要となる資料である。このうち、サーバールーム内に設置してあるサーバー間で発生した通信障害に対処するとき、運用管理者がネットワークの全体像を把握するために最初に参照するものとして最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 予備機器の配置図
- イ. ネットワーク構成図
- ウ. ネットワーク配線図
- エ. 機器配置図

問題39 情報システムについて、利用部門からの要望によりアプリケーションソフトウェアの性能向上のために行われる保守として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．完全化保守
- イ．是正保守
- ウ．予防保守
- エ．適応保守

問題40 情報セキュリティリスクへの物理的管理策に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．認可されていない者の立ち入りを管理するために、訪問者の出入り日時を記録する。
- イ．停電時の対策として、UPSを設置する。
- ウ．情報の漏えいへの対策として、ホワイトボードに書いた重要情報は、利用後速やかに消す。
- エ．重要な情報を記録する機器を設置するサーバー室の管理を適切に行うために、サーバー室の管理者を設置する。